

保健婦室から

健康のメモ

二年ぶりに市で行う胃がん検診を受けたAさんは、「専門の医療機関で精密検査を受けてください」という通知を受け取りました。以前から検診を受けるたびに同じ結果が続き、病院で精密検査を受けると「どこも悪くない」と言われ、「もう二度と検診などい

ものか」と思うのです。今回も夫の家系にがんが死亡した人が多いことを心配した妻に熱心に勧められ、いやいや検診会場に足を運びました。そしていつもと同じ結果に。「自分はまた四十六歳。食欲もあるし、どこも悪いと思わない。自分の体のことぐらい自分でわかる。どうせ病院で検査したっていつもと同じ事だ」とまずは放ったままにしていました。何日か経ち、心配する妻や保健婦に再三説得されてしぶしぶ精密検査を受けてみたところ、即座に「早期がん」と告げられたの

がんから生命を守る方法

です。まさか自分ががんだとは思ってもみなかったAさんでした。手術前には眠れない夜もありましたが、自覚症状もなく体力も充分だったためか手術後の経過も順調で、手術から二十日後には退院、そしてその一か月後には手術前と変わらない生活をしていきます。医学が進んだ現代、誰もが恐れるがん。その中でもっとも多いのが胃がんです。四十歳になったらあなたも胃がんの要注意年齢圏内です。新しい年を迎えました。自覚症状のない早期の段階で発見するために、今年も一回は検診を受けましょう。

活をしていきます。医学が進んだ現代、誰もが恐れるがん。その中でもっとも多いのが胃がんです。四十歳になったらあなたも胃がんの要注意年齢圏内です。新しい年を迎えました。自覚症状のない早期の段階で発見するために、今年も一回は検診を受けましょう。

南国歌壇

お正月娘姑よりお年玉  
ぬくぬくはなんてんうれしく  
着こむ 立田 清岡照子  
数々の偉業を遂げし千代の富士  
断髪式の泣うるわし  
大浦 島 光則  
草焼きの跡黒ぐると鎮もりて  
やがて萌え出むものを育く  
西島 門田美枝子

時にと登るかたえの岩清水  
木洩れ陽映し細く流るる  
三畠 小笠原綾子  
春くればおぼろに還るまほろばの  
ふる里比江野によもぎ  
摘みし日 亀岩 島本 栄  
週休もバブルも知らず黙々と  
蒸せるハウスの下を這い行く  
田村 川口岩春

南国柳壇

ロシアには銭はなけれど核があり  
前浜 大原正明  
高速道できても車に乗るでなし  
十市 八松久幸  
臥しつとも春の光を窓に受け  
十市 沢村鶴一  
初恋のデートに背広選びおり  
里改田 岩崎一子

南国俳壇

玄関に並ぶ雨杵涅槃寺  
修復を重ねて今に涅槃像  
金の蓮淡き影曳く涅槃図絵  
雪山の雲はがしたいふうーと吹く岡田昌子 (花おうち俳句会)  
山頂まで雪太陽をおどらせる岡田惣喜 ( )  
松葉齧生かされている痛みかな岡田寿子 ( )  
竹ほどに固き甘蔗となりけり濱田東風 (南国俳句会)  
火伏砂より煙りをり焚火あと市原遊亀 ( )  
寒禽の鳴くや湧水あたたかき溝淵さちえ ( )

